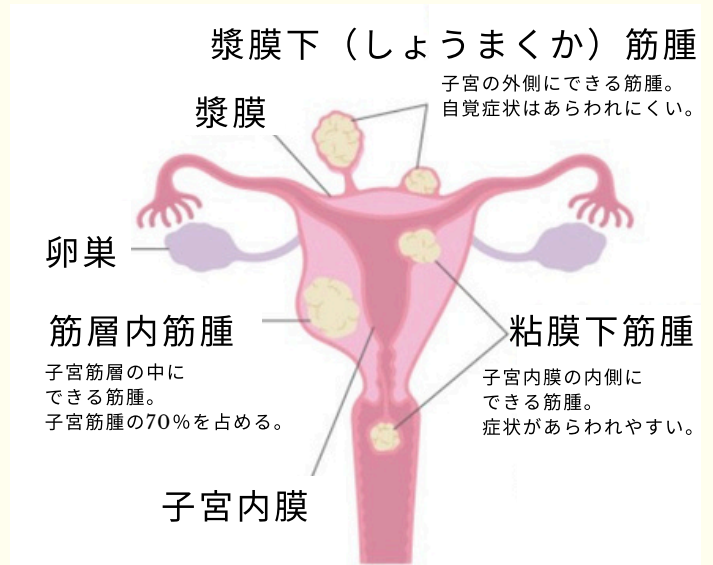


子宮筋腫とは

子宮にできる良性の腫瘍で、がんではありません。

30歳以上の女性の3割前後に、子宮筋腫を認めるといわれています。

子宮筋腫は、卵巣から分泌される卵胞ホルモン（エストロゲン）の影響で大きくなります。一方、閉経すれば、増大することはなくなります。



子宮筋腫は、できた場所によって、子宮の内側の粘膜下筋腫、子宮の筋肉の中の筋層内筋腫、子宮の外側の漿膜下筋腫の、3つに分類されます。場所や大きさによって、月経の出血量が多い（過多月経）、貧血、お腹の痛みなど、さまざまな症状を引き起こします。

検査



婦人科診察（内診）と超音波検査を行います。

MRI検査をすることもあります。

巨大な子宮筋腫や変性した子宮筋腫は、悪性腫瘍（子宮肉腫）との区別が難しいときがあります。腫瘍の大きさや年齢、大きくなるスピード、MRI検査の結果などから、総合的に判断しています。

治療

子宮筋腫のサイズや症状によっては、治療しないで経過を観察することもあります。

治療が必要な場合は、薬による治療と、手術による治療が選択肢になります。

ホルモン治療

子宮筋腫を根本的に治す薬はありませんが、過多月経や貧血、痛みの症状を軽くすることができます。よく行われるのが「偽閉経療法」と呼ばれる治療で、ホルモンの働きを抑えることで一時的に月経を止め、筋腫を縮小させます。ただし、更年期のような副作用や骨密度の低下があるため、治療期間は半年以内とされています。治療をやめると筋腫は元に戻るため、手術の前や閉経に近い方に用いられます。そのほか、止血剤や低用量ピル、鉄剤、子宮内に器具を入れる治療なども行われます。

外科的手術

| | 腹腔鏡下手術 (内視鏡手術) | ロボット支援 手術 (da Vinci) | vNOTES手術 (経腔内視鏡手術) | 開腹手術 |
|-------------|-----------------------------------|--|--------------------------------------|---------------|
| アプローチ 方法 | お腹に小さな穴をあけて実施 | お腹に小さな穴をあけてロボット操作する腹腔鏡手術 | 腔から器具を挿入する腹腔鏡手術 | お腹に切開を加えて行う手術 |
| 回復の早さ | 早い | 早い | 早い | やや遅い |
| 特徴 メリット | 多くの施設で対応可能 低侵襲で傷が小さく、早期社会復帰が可能 | 難しい操作可能 安全性が高い 低侵襲で傷が小さく、早期社会復帰が可能 | お腹に傷がないため、痛みが少なく美容的に優れる 早期社会復帰が可能 | 困難な症例に対応 |

